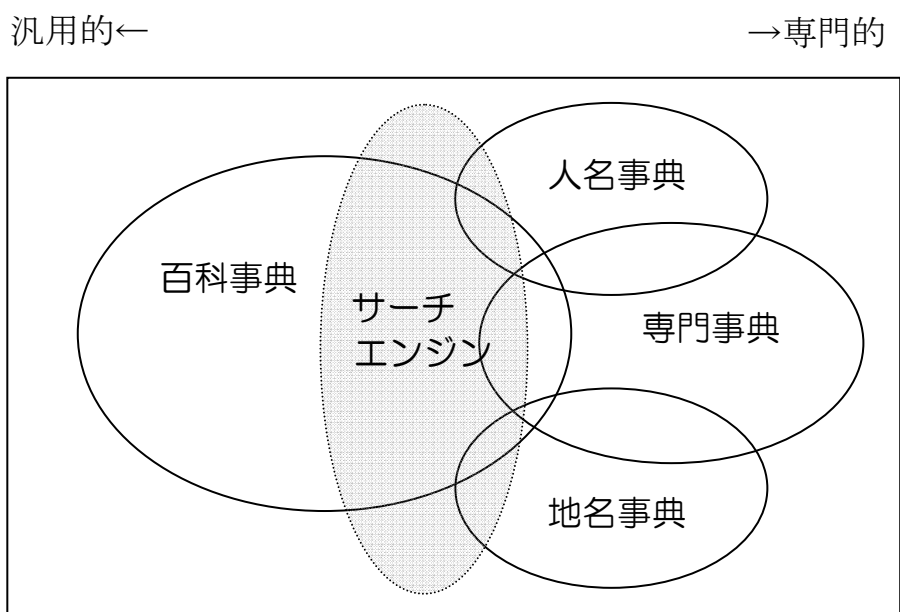


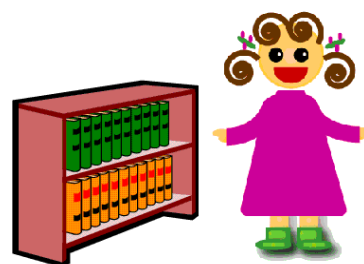
7.1 事柄について調べる

ここまでは、過去にどのような研究がなされてきたかを知るために、文献情報やその所在を探す方法を説明してきました。この章では、人名や地名、名称、用語、事象などの「事柄」を調べるツールについて、百科事典・人名事典・地名事典・専門事典・サーチエンジンに分けて説明します。文献を探す場合と同様に、効率的な検索を行うには、まずそれぞれのツールの特徴を把握することが重要です。



図表 7-1 事柄を調べるためのツール

この章で紹介するツールは、主に図書館の「参考図書コーナー」に配置されています。何かわからないことがあれば、これらのツールを実際に手に取って調べる習慣をつけましょう。参考図書には、便利な索引や、事柄ごとの参考文献情報も盛り込まれているものがあります。それらをたどっていくことで、知識や研究をより広げることができます。





図表 7-2 参考図書コーナー（本館 RC）



まめちしき 参考図書とは

図書館での「参考図書」とは、学習参考書や参考文献のことではありません。参考図書は、最初から最後まで「読む」ものではなく、ある言葉や事柄を「調べる」ための図書です。

参考図書には、書誌・目録などの「文献」を調べるための図書と、辞書・事典・便覧・ハンドブック・地図・統計・年鑑・図鑑などの「事柄」を調べるための図書が含まれます。

最近では図書だけでなく、CD・DVDやウェブサイトなど、調べるためのツールの形態は多様化しています。これらすべてを含めて、「レファレンスツール」とも呼んでいます。

7.2 百科事典

「百科事典 (Encyclopedia)」は、何らかの人名、名称、地名、事象などを調べたいとき、まずその概要を知るために便利なツールです。各項目についてわかりやすく体系的にまとめられているだけでなく、参考文献があれば、それを手がかりにさらに調査を進めることができます。また、冊子体の百科事典を使うときは、最初に「索引」を引くことを忘れないでください。自分が知りたい事柄が、ほかの見出しにも収録されていることがあるからです。百科事典では内容が不足する場合は、各種の専門事典を調べてください (7.3~7.5参照)。

以下では、代表的な百科事典を紹介します。このほかに外国語のものなども多数所蔵していますので、図書館の参考図書コーナーで探してみてください。

■ 『世界大百科事典』 全 35 巻 平凡社

1988 : 本館 RC [UR1/020]・医分 [UR1/SE22S]・北分 [UR1/6]

1998 CD-ROM : 本館 RC [UR1/020]

専門的な内容もわかりやすく解説されています。参考文献はありませんが、外国語欧文索引があり、カタカナ表記がわからないときに便利です。

■ 『日本大百科全書』 全 25 巻 小学館

1994 : 本館学閲 [UR1/042]・医分 [UR1/N71N]・北分 [UR1/1]

カラー図版が多く、わかりやすい百科事典です。解説の最後に参考文献が添えられている項目もあります。欧文索引はありません。オンライン上では、『JapanKnowledge Classic』及び『Yahoo! 百科事典』から検索することができます。

■ 『ブリタニカ国際大百科事典』 全 20 巻 TBS ブリタニカ

大項目 1995 : 本館 RC [UR1/05]・医分 [UR1/B92B]・工分 [030/3]

小項目 2000 CD-ROM : 医分 [UR1/B92B]・工分 [030/3]

少ない項目数で体系的に解説されている「大項目事典」と、多くの項目数で簡潔に解説されている「小項目事典」の2本立ての百科事典です。

ウェブ版『Britannica Online Japan』 ブリタニカジャパン

<<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/newdb/detail.php?id=89>>

学内限定

大項目、小項目、『ブリタニカ国際年鑑』を統合して検索できます。

最新の用語を調べるには、以下のような**現代用語事典**が有用です。

- 『現代用語の基礎知識』 自由国民社：本館 RC
(『JapanKnowledge Classic』で検索可)
- 『知恵蔵』 朝日新聞社 (『聞蔵Ⅱ』で検索可)
- 『imidas』 集英社
(『JapanKnowledge Classic』、『ヨミダス歴史館』で検索可)

- 『JapanKnowledge Classic』 ネットアドバンス
<<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/newdb/detail.php?id=19>>

学内限定

このデータベースでは、百科事典などの各種参考図書を検索できます。ある事柄についての情報を多面的かつ効率的に入手することができ有用です。

収録コンテンツ

- ・ 百科事典：『日本大百科全書 (ニッポニカ)』 (小学館)
『Encyclopedia of Japan』 (講談社)
- ・ 用語事典：『情報・知識 imidas』 (集英社)
『現代用語の基礎知識』 (自由国民社)
- ・ 人名事典：『日本人名大辞典』 (講談社)
『JK Who's Who』 (ネットアドバンス)
- ・ その他、語学辞書・特殊辞書・辞典・データベース・『東洋文庫』『会社四季報』など



まめちしき 『ウィキペディア (Wikipedia)』

ウィキペディアは、非営利団体ウィキメディア財団によって多言語展開で運営されている、ウェブ上の無料の百科事典です。記事の投稿、編集が誰でも行える自由参加型である点が最大の特徴で、その自由な編集方針による情報の多様性や新規性は非常に魅力的です。ただし、必ずしも情報の信頼性については保証されていませんので、利用する際はほかの情報源と相互参照する必要があるでしょう。

→ <<http://ja.wikipedia.org/wiki/>>

7.3 人名事典

「人名事典 (Biography)」には、分野や国によってさまざまな種類があります。その中から最適な資料を選ぶためには、次のようなポイントがあります。

- **地域**：どこの国の人物か、日本人か外国人か
- **分野**：どのような分野の人物か、専門的な事典が必要か
- **時代**：いつの時代の人物か、現存者か物故者か

さらに注意すべき点としては、事典によって生没年などの記載が異なる場合があるので、複数のツールを調べるようにしてください。

また、最近話題となった人物の場合は、まだ人名事典に収録されていないことがあります。その場合は雑誌記事（4章参照）や新聞（5章参照）、現代用語事典（7.2参照）、サーチエンジン（7.6参照）、などで調べてみてください。

7.3.1 日本人を調べる

- 『日本紳士録』 ぎょうせい 2002：本館 RC
- 『人事興信録』 人事興信所 1996：本館 RC
日本人と在日外国人を収録した隔年発行の人名録です。特に、出版当時に活躍していた政治家や実業界などの公的人物を探すときに便利です。
- 『日本人名大事典』 復刻版 平凡社
1979：本館 RC [GB12/015]（現代編のみ）・北分 [GB12/3]・農分 [281/030]
旧漢字・旧仮名使いで記述され読みにくいかもしれませんが、1978年までに故人となった日本人を調べるときに便利です。肖像や典拠文献が付けられている場合もあります。
- 『著作権台帳』 日本著作権協議会 2000：本館 RC
「文化人名録」の別称があり、没後 50 年以内の作家などの文化人を探すときに便利なツールです。著作だけでなく略歴や連絡先を知ることができます。現存者と物故者に分けた、分野ごとの編集になっています。

- 『人物データベース』（『聞蔵Ⅱ』で提供） 朝日新聞社

<<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/newdb/detail.php?id=36>>

学内限定

研究者、議員・官僚、上場企業の社長やマスコミ関係者など、朝日新聞社が作成する人物情報の検索が可能です。経歴や連絡先まで参照できます。

『聞蔵Ⅱ』については、5.3.2(1)を参照してください。

7.3.2 外国人を調べる

外国人を調べる場合は、日本語でのカタカナ表記やミドルネームの取り扱いなどに注意する必要があります。例えば「ビクトリア」「ヴィクトリア」のようにツールによって表記が異なる場合があるからです。まず、どれか1つのツールで正確なスペルを調べ、さらに欧文索引が付いたツールや外国のツールを調べると効率的です。

ここでは、日本で出版された人名事典を中心に紹介しますが、外国で活躍した人物はその国発行の事典の方が詳しく解説している場合が多いので、それらを参照するようにしてください。

- 『岩波＝ケンブリッジ世界人名辞典』 岩波書店

1997：本館 RC [GK2/053]・工分 [280.3/2]，1998 CD-ROM：工分

『The Cambridge biographical encyclopedia』の日本語版で、現代の欧米人を中心に収録しています。氏名はカタカナ表記で、欧文索引もあります。

- 『岩波西洋人名辞典』 増補版 岩波書店

1981：本館 RC [GG12/01]・医分 [GG12/1951] ほか

古代から現代の外国人（東洋人・架空人物も含む）が収録されています。特に日本と関わりの深い人物を調べるときに便利です。主な著作や参考文献も含まれています。氏名はカタカナで表記されており、欧文索引もあります。

- 『Marquis Who's Who on the web』 Marquis 1985～

<<http://tul.library.tohoku.ac.jp/modules/newdb/detail.php?id=42>>

学内限定

『Who's Who in America』、『Who was Who in America』など、米国を中心に人物情報約130万件を検索できます。ほかにも各国版の『Who's Who』や、専門分野ごとに出版されているものなど、多数あります。

7.3.3 専門的な人名事典

人名事典には、範囲を絞った専門的なものがあります。これらには、普通の人名字典には掲載されていない人物が収録されていたり、より詳しい解説が掲載されていたりすることがあります。一例として、地域、分野、時代によるツールを紹介します。

- 『仙台人名大辞書』 歴史図書社 1974 : 本館 RC [GB12/04]
元亀元年から昭和7年(1570~1932)までの、仙台藩領内の人物事典です。
- 『科学者人名事典』 丸善 1997 : 本館学関/RC [M12/09]
古代から現代の欧米人を中心とする科学者たちの小伝を収録しています。
- 『江戸幕臣人名事典』 改訂新版 新人物往来社 1997 : 本館 RC [GB397/07]
江戸時代の幕臣・大名・職人等を収録しています。

また、大学などの研究者を調べるためには、以下のツールが有用です。

- 『東北大学研究者紹介』 東北大学
<<http://db.tohoku.ac.jp/whois/>>
名前、所属からだけでなく、キーワードや研究分野からの検索もできるので、本学の最新の教員情報を効率よく検索できます。本学以外でも、様々な大学がこのようなツールを作成し、公開しています。
- 『ReaD 研究開発支援総合ディレクトリ』 科学技術振興機構
<<http://read.jst.go.jp/>>
研究者名だけでなく、研究機関や研究課題からも検索できます。
- 『KAKEN : 科学研究費補助金データベース』 1985~ (採択課題は1965~)
国立情報学研究所 <<http://kaken.nii.ac.jp/>>
科学研究費補助金研究成果報告書を探すツールですが、「研究者を検索」から研究者を検索することもできます。(6.3.1 参照)

■ 『研究者・研究課題総覧』 日本学術振興会

1979～1996：本館 RC ほか

大学などの研究機関に、過去に在籍していた研究者を探すときに便利なツールです。人文・社会科学編と自然科学編があり、研究テーマや学歴、主な著作などがわかります。その人物が在籍していた頃の版を調べてください。

7.3.4 人名事典を調べる事典

調べたい人物が、どの人名事典に載せられているのかわからないときに便利なツールです。どの人名事典に載っているのかがわかったら、オンライン目録を検索して図書館にあるかどうか調べてください。ただし、海外のものや専門的なものなど、収録されていない事典も多数ありますので注意が必要です。

■ 『人物レファレンス事典』 全6巻 新訂増補版 日外アソシエーツ

1996～2003：本館 RC [GK2/018]

■ 『外国人物レファレンス事典』 全7巻 日外アソシエーツ

2002：本館 RC [GK2/077]

日本で出版された人名事典に収録されている人物について、簡単な説明と典拠となる事典の情報を収めています。外国人は、アルファベット順（西洋人）と漢字の画数順（東洋人）にまとめられており、国籍や概略などの情報も含まれています。



まめちしき 事典・辞典・字典の違いとは？

ツールによって、同じ「じてん」でも、「事典」「辞典」「字典」と漢字が違うことに気づいたでしょうか。ツールによってその通りに使われているとは限りませんが、おおむね次のような違いがあるとされています。

- 事典＝コト-テン 事柄の解説 (例：百科事典)
- 辞典＝コトバ-テン ことばの解説 (例：国語辞典)
- 字典＝ジ-テン 字の解説 (例：漢字字典)

7.4 地名事典

「地名事典 (Gazetteer)」も、国や地域に応じて数多くのツールがあります。ツールの選択には、次のようなポイントがあります。

- **地域**：どの国のどの地域か、日本か外国か
- **内容**：何が知りたいのか、地名・地図など
- **時代**：現在か過去か

7.4.1 日本の地名事典

- 『日本歴史地名大系』 全 50 巻 平凡社 1979～2005 : 本館 RC [GB11/012]
都道府県別の巻立てで、本文は市町村ごとの編集となっています。古代から現在の地名や、文学上の地名などさまざまな分野の地名を収録しており、参考文献情報も充実しています。

ウェブ版 <<http://rekishi.jkn21.com/>> 学内限定

- 『角川日本地名大辞典』 全 51 巻 角川書店
1978～1991 : 本館学閲/RC [GB11/010]・北分 [GB11/5]・農分 [291.03/KA14]
都道府県別の巻立てで、本文は地名の 50 音順になっています。地名の由来や現状を含めたその土地の歴史を調べたいときに便利な地名事典です。
- 『現代日本地名よみかた大辞典』 全 7 巻 日外アソシエーツ
1985 : 本館 RC [GB11/027]
読み方がわからないときの参考になります。配列は漢字の画数順です。

7.4.2 外国の地名事典

外国地名を調べるときは、人名を調べるときと同様に、カタカナ表記に注意する必要があります。例えば、「ベネチア」「ヴェネチア」のようにツールによって表記が異なる場合があるからです。まず 1 つのツールで正確なスペルを調べておくと、ほかのツールを調べるときに役立ちます。

- 『世界地名辞典』 全2巻 新版 東京堂出版
1980：本館 RC [G64/05]・医分 [290.3/SE22S]・農分 [290.3/SE22]
西洋編と東洋編があり、欧文索引と漢字の画数索引があります。
- 『世界地名大事典』 全8巻 朝倉書店
1973～1974：本館 RC [G64/01]・医分 [G64/SE22S]
カタカナ表記の50音順ですが、欧文索引があります。

7.4.3 地図

場所や地形を知りたいときに役に立つのが「地図 (Atlas)」です。以下に紹介するような日本地図のほかに、道路地図・住宅地図・歴史地図などもあります。

- 『電子国土ポータル』 国土地理院 <<http://portal.cyberjapan.jp/>>
国土地理院の地図情報から、オリジナル地図を作成・公開できます。
- 『Google マップ』 Google <<http://maps.google.co.jp/>>
地図のドラッグや衛星写真の表示、キーワード検索も可能です。Googleは専用ソフトを用いる『Google Earth』<<http://earth.google.co.jp/>>も提供しています。
- 『マピオン』 CyberMap Japan Corp. <<http://www.mapion.co.jp/>>
地名検索だけでなく、ランドマークからも検索を行うことができます。
- 『新日本分県地図』 国際地学協会 2001：工分 [291.038/1] ほか

7.4.4 その他のツール

ほかにも、目的によって次のようなジャンルのツールがあります。

- 地誌 : 『宮城県誌』、『仙台市史』など自治体で発行したもの
- ガイド : 『地球の歩き方』、『るるぶ』、『マップル』などの旅行ガイド
- 百科事典 : 『宮城県百科事典』など、都道府県ごとの百科事典
- データ : 『理科年表』、『河北年鑑』などの地理情報を記載しているもの

7.5 専門事典

「専門事典 (Cyclopedia)」は、分野ごとに用語や内容を編集した事典です。専門事典では、百科事典には載っていないような専門用語を調べることができます。また、各項目の参考文献を参照すると、より深い知識を得ることもできます。各事典の凡例には収録基準がかかれていますので、調べる前に読むようにしてください。

以下に、いくつかの専門事典を紹介しますが、このほかにも分野ごとに数多く発行されています。ほかにどんな事典があるかは、図書館のオンライン目録で、「辞典」「事典」「大事典」「大辞典」「体系」「大系」などのキーワードを使って探してみてください (3章参照)。

7.5.1 人文・社会科学分野

- 『日本国語大辞典』 全13巻 第2版 小学館
2002 : 本館 RC [KF3/01]・医分 [KF3/N77N]
ウェブ版 『日国オンライン』 <<http://nikkoku.jkn21.com/>> 学内限定
- 『大漢和辞典』 全13巻 修正第2版 大修館書店
1990 : 本館 RC [KF4/01]・医分 [KF4/D21D]
- 『国史大辞典』 全15巻 吉川弘文館 1979 : 本館 RC [GB8/034]
- 『岩波哲学・思想事典』 岩波書店 1998 : 本館学閲 [H2/062]・医分 [H2/1951]
- 『The Oxford English dictionary』 全20巻 第2版 Clarendon Press
1989 : 本館 RC [KS12/35]・工分 [833/4]
1995 CD-ROM : 本館 RC [KS12/272]
- 『ラールース世界音楽事典』 全2巻 福武書店 1989 : 本館 RC [KD2/048]
- 『新教育学大事典』 全8巻 第一法規出版 1991 : 本館 RC [F2/0101]
- 『新法学辞典』 日本評論社 1991 : 本館学閲/RC [A112/0158]
- 『経済学大辞典』 全3巻 第2版 東洋経済新報社
1980 : 本館学閲/RC [D2/0164]・農分 [330.3/KE29K]

より詳しくは『人文社会科学編』を参照してください。

7.5.2 自然科学分野

- 『マグローヒル科学技術用語大辞典』 第3版 日刊工業新聞社
2000 改訂版：工分 [403/8/2000]・農分 [403/M]
1996：本館学閲 [M2/051]・医分 [M2/MA29M]・北分 [M2/38]
1998 CD-ROM：工分 [403/8/1998]
- 『岩波数学辞典』 第4版 岩波書店
2007：本館学閲 [MA2/02]・北分 [MA2/2]・工分 [410.3/2007]
- 『岩波理化学辞典』 第5版 岩波書店
1998：本館学閲 [M2/07]・医分 [PA2/195I]・北分 [M2/13]・工分 [403.3/1]・
農分 [403.3/195]
1999 CD-ROM：工分 [403.3/1/CD-5ED]
- 『理科年表』 丸善 2010：本館学閲/RC ほか
ウェブ版 理科年表プレミアム <<http://www.rikanenpyo.jp/member/>>
学内限定
- 『メルクマニュアル』 第18版 日経BP社 2006：医分 [WB100/ME69M]
ウェブ版 万有製薬 <<http://www.banyu.co.jp/merck>>
- 『農業技術大系』 全6編 農山漁村文化協会 1997：農分 [610.8/N93N]
- 『化学書資料館』 <<https://www.chem-reference.com/>> 学内限定

7.5.3 専門事典を探すためのツール

事典などの参考図書そのものを、分野ごとに紹介しているツールがあります。参考にしたいツールを見つけたら、図書館のオンライン目録で探してみてください。

- 『日本の参考図書』 日本図書館協会 2002：本館 RC [UP41/031]
- 『参考図書紹介』 国立国会図書館 <<http://rnavi.ndl.go.jp/sanko/>>
- 『年刊参考図書解説目録』 日外アソシエーツ
2003～2007：本館 RC [UP41/025]

7.6 サーチエンジン

ここでは代表的なサーチエンジンを紹介します。それぞれ用途に応じて使い分けてください。なお、サーチエンジンで検索できる情報にも図書や雑誌と同じように著作権があります。利用する際には引用・参照のルールを守ってください。(2.4.3参照)。

7.6.1 サーチエンジンとは

サーチエンジンとは、インターネット上の文字や画像などの公開情報を検索するためのシステム、またはそのシステムを提供するウェブサイトのことです。

現在日本で利用されている主なサーチエンジンとしては、『Yahoo! JAPAN』や『Google』などが挙げられます。これらのサーチエンジンは、インターネット上に無数にあるウェブサイトを、検索ロボットと呼ばれるプログラムを使って自動収集し、収集したウェブサイトの全文をキーワードによって検索できるようにしています。ただし、インターネット上にある情報全てを網羅して収集しているわけではありません。必要に応じて、他のツールと併用してください。

検索ロボットを用いたサーチエンジンは「ロボット型」と呼ばれます。それに対して、一定の基準に添ってウェブサイトを収集し、分野ごとに階層的に分けて提供する「ディレクトリ型」と呼ばれるサーチエンジンもあります。例えば『Yahoo! JAPAN』は、以前はディレクトリ型と呼ばれていました。しかし、インターネット上の情報が膨大になり、その情報を検索する精度が格段に向上しつつある現在では、ディレクトリ型とロボット型を併用したシステムへと発展しています。

- 『Yahoo! JAPAN』 <<http://www.yahoo.co.jp/>>
- 『Google 日本』 <<http://www.google.co.jp/>>

学術専門誌、論文、書籍、要約、記事などの学術資料探すには、以下のサーチエンジンが便利です。

- 『Google Scholar』 <<http://scholar.google.co.jp/>>



まめちしき Google 活用小ネタ集

『Google』を検索するとき、不必要な情報ばかり出てきて困った経験はありませんか？そんなときは次の機能を試してみてください。詳しくは「Google ヘルプ」を参照してください。

■ 論理演算（2.3.3参照）

「AND 検索」をしたいときは検索語間をスペースで区切り、「OR 検索」をしたいときは検索語間に大文字で「OR」と入力します。また、「NOT 検索」をしたい時は「-」を付けた単語を入力し、検索時に自動で除かれてしまうような頻繁に使われる単語を検索結果に付け加えたいときは、「+」を付けた単語を入力します。

■ フレーズ検索

複数の単語からできている、固有名称やことわざなどの複合語を検索したいときは、「”」（ダブルクォーテーション）で単語を囲むことにより、全体が一致するサイトを検索することができます。

例) 「”東北大学附属図書館”」「”情報探索の基礎知識”」

■ ドメイン制約検索

ウェブサイトの範囲を絞って検索したいときは、「site:」に続けてアドレスの一部を入れることで絞ることができます。信頼度の高い公的機関に絞りたい場合は、ドメイン名を指定すると便利です。

例) 「site:library.tohoku.ac.jp 企画展」

→東北大学附属図書館サイトで企画展を検索

「site:go.jp」→政府機関

「site:ac.jp」→研究教育機関

■ 検索オプション

『Google』の「検索オプション」では、上記を含む詳細な検索ができます。

7.6.2 サーチエンジンと参考図書

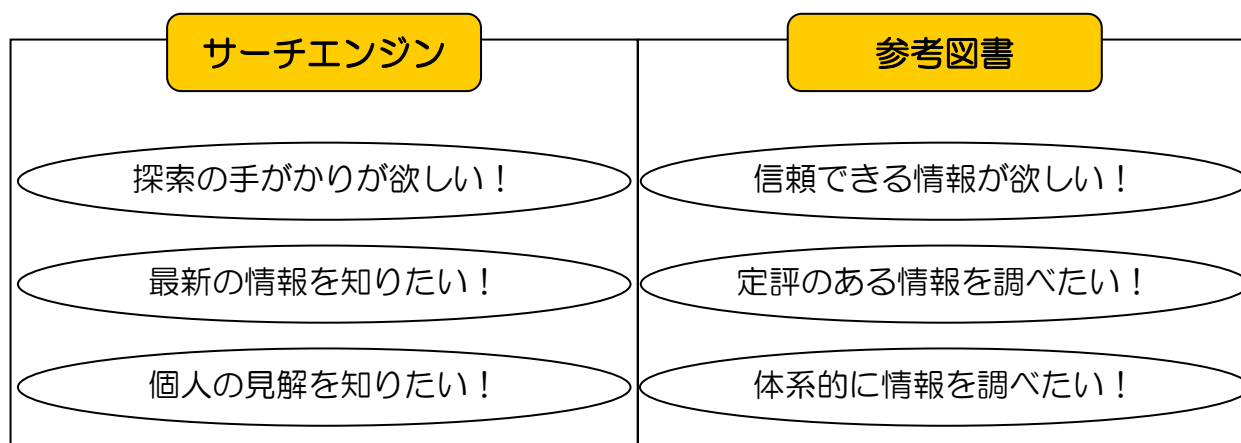
ここまで主な参考図書を紹介してきましたが、皆さんが何か事柄を調べる時、まず念頭に浮かぶのは、参考図書ではなくサーチエンジンなのではないでしょうか。

確かにサーチエンジンは膨大な検索結果を返してくれますが、その中から有用な、しかも信頼できる情報を選び出すのは難しいものです。また、すべての情報がウェブ上にあるわけではなく、参考図書でないと調べられない情報があります。重要なものは、繰り返しになりますが、特徴を把握した上でツールを使いこなすということです。1.1.4参照

種類	サーチエンジン	参考図書
情報の信頼性	発信者により信頼性はまちまち	確認された事実が中心で、信頼性は高い
情報の範囲	あらゆる分野	学術的な分野が中心
情報の鮮度	速報性が高いものもあるが、情報源によりまちまち	ある程度時間を経て、確認されたものが中心
情報の蓄積	古いものは利用できない場合が多い	過去のものも継続して蓄積されている
情報の関連づけ	一部整備されたものもあるが、全体としてはまちまち	分野ごとに体系的に整理されている

図表 7-4 サーチエンジンと参考図書の比較

サーチエンジンと参考図書には、それぞれ長所と短所があります。どちらか一方だけが優れているわけではありませんので、状況に応じて使い分けたり、両者を参照・比較したりしながら、効果的で正確な検索を行うよう心がけてください。



どうしても調べ方がわからないときは図書館のレファレンスカウンターご相談ください。『MyLibrary』のメニューの中にも『レファレンス・サービス』という図書館への質問窓口が用意されています。(1.2.4 まめちしき参照)

また、以下のサイトに調べもののヒントが掲載されているかもしれません。

- 『リサーチ・ナビ』 国立国会図書館
<<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>>



まめちしき 事柄を調べるためのその他のツール

7章では、事柄を調べるためのツールとして、事典を中心に紹介してきましたが、事典以外にどのような参考図書があるのか、ここで簡単に紹介します。

- **便覧・ハンドブック**

事典とよく似ていますが、名前のおり手にとって使いやすいよう情報がまとめられたツールです。内容はさまざまですが、実用的な内容のものが多く見られます。なお、「便覧」には、「びんらん」「べんらん」の2種類の読み方があります。

例) 『液晶便覧』、『JIS ハンドブック』

- **年鑑**

1年間の概況や動向などをまとめた年1回発行の資料です。内容は、新聞社が発行する時事的なものや、専門分野のもの、統計・現代用語などさまざまです。『日本年鑑総覧』(日本図書センター発行 本館 RC 所蔵)を使うと、どのような年鑑があるのかを調べることができます。

例) 『朝日年鑑』、『英語年鑑』、『日本統計年鑑』

- **図鑑**

特定分野の写真や図版を集めたツールです。文章だけでは得られない情報を知ることができます。

例) 『原色日本植物図鑑』、『江戸の暮らし図鑑』

演習問題

- 7-1 「スピネット」という楽器がどのようなものか調べる。
(百科事典を利用する)
- 7-2 一般相対性理論を完成させたアインシュタインの生没年と主な業績を調べる。
(人名事典を利用する)
- 7-3 仙台市青葉区の「米ヶ袋」という地名の由来は何か調べる。
(地名事典や地誌を利用する)
- 7-4 「登呂遺跡」はいつ発見されたのか調べる。
(歴史事典を利用する)
- 7-5 サーチエンジンを使って、演習問題7-1～7-4を調べ、検索結果を比較する。
(『Google』を使う)

解答と解説は、付録8にあります。